



下野布衣蒲生書實序并頌首謹上書  
執政吉田從四位閣下蓋聞之一治一亂自  
古其常然天地之割分而神州有  
自然天地之割分而神州有  
天子之受天命焉而伝祚長久無有窮極  
雖世有盛衰道有消隆而皇天代佐之以賢  
腹如珍烹山家雖貧厨有粟食我之餘我心憎何爲架上傷卷軸不獨  
床頭倒瓶罋却爾無刀逐無丸怒張倦眼徒相看憑誰手捷拔尔鬚  
使工製筆揮煙雲

## 天

初春日偕同仙台陶齋南部壺草堂栗野真平水壺觀梅席上丁未年舊韻  
仙臺林子平

夜間鼠齧畫軸因歎  
羣奴睡熟窓月斜羣鼠出穴行如梭主人無營但有畫烟霞四壁誇  
豪奢嗟爾性黠何無情放膽而齧偏求精平時豈有嗜古癖藉茲飽  
腹如珍烹山家雖貧厨有粟食我之餘我心憎何爲架上傷卷軸不獨  
床頭倒瓶罋却爾無刀逐無丸怒張倦眼徒相看憑誰手捷拔尔鬚  
使工製筆揮煙雲

天

初春日偕同仙台陶齋南部壺草堂栗野真平水壺觀梅席上丁未年舊韻

応需

仙台林子平



4 月雪和歌短冊 本居宣長・本居大平

見るほどハミシカキアシのふしの間も  
なみに入江の三日月の影

宣長



雪  
ふとさしむのゆきわらや  
かくすて、まつもとじたむとく

ふりそむるけふの初雪わかやとに  
梅さくまでハキえすもあらなむ

大平



## 5 待郭公和歌短冊

高野長英

雪  
かくすて、まつもとじたむとく  
かくすて、まつもとじたむとく

ふりそむるけふの初雪わかやとに  
梅さくまでハキえすもあらなむ

大平

下野布衣蒲生書實序并頌首謹上書

執政吉田從四位閣下蓋聞之一治一亂自

古其常然天地之割分而神州有

自然天地之割分而神州有

天子之受天命焉而伝祚長久無有窮極

雖世有盛衰道有消隆而皇天代佐之以賢

腹如珍烹山家雖貧厨有粟食我之餘我心憎何爲架上傷卷軸不獨

床頭倒瓶罋却爾無刀逐無丸怒張倦眼徒相看憑誰手捷拔尔鬚  
使工製筆揮煙雲

下忠義慷慨之士奮而作氣一可以敵百十

國体未嘗有禽獸唐人類未嘗有夷蠻戎

狄侵寇中土奈何乃至於今可独堪夫魯

西亞豺虎之暴於北邊哉是天下忠義慷慨

之士人人所以切齒扼腕而憤也自我

東照神祖之輔

其股於是方有邊塞

國始完屹大然責賤生

謀略者祀嚴威以獻良策馬凡有村或者蒙

天石以建忠功焉凡其有時皆有舉家廉以

賞軍興焉夫然後天下之患可以除擰矣嗚

平自弘安有蒙古之招撫西邊五百年之

後今方復有夫魯西亞之暴於北邊矣夫魯

西正首不猶繼蒙古嘗溺其水軍十萬波濤

之燐乎神州固天命之所全福

宗廟及山川百神百祀起烈風怒波濤而天

下忠義慷慨之士奮而作氣可以敵百十

可以敵萬騎而有一捷當進兵定舟直衝穿

東照神祖之輔

其股於是方有邊塞

國始完屹大然責賤生

謀略者祀嚴威以獻良策馬凡有村或者蒙

天石以建忠功焉凡其有時皆有舉家廉以

賞軍興焉夫然後天下之患可以除擰矣

応需

待郭公

保登喜須ま川に日数をたち花乃(ほとゝきすまつにひかすをたちはなの)

志の婦に本飛越もら須夜も可那

三泊(しのふにほひをもらすよもかな)

其鬼且以爲凡變之起必先有其徵矣

惟豪

下野布衣蒲生書實序并頌首謹上書  
執政吉田從四位閣下蓋聞之一治一亂自  
古其常然天地之割分而神州有

天子之愛天命而傳祚長久無有窮極  
雖世有盛衰道有消隆而皇天代佐之以賢  
宰良相不喪其神器不墜其民命不舛其  
國體未嘗有禽獸唐人類未嘗有夷蠻戎  
狄侵寇中土奈何乃至於今可独堪夫魯

西亞豺虎之暴於北邊哉是天下忠義慷慨

之士人人所以切齒扼腕而憤也自我

東照神祖之輔

其股於是方有邊塞

國始完屹大然責賤生

謀略者祀嚴威以獻良策馬凡有村或者蒙

天石以建忠功焉凡其有時皆有舉家廉以

賞軍興焉夫然後天下之患可以除擰矣

平自弘安有蒙古之招撫西邊五百年之

後今方復有夫魯西亞之暴於北邊矣夫魯

西正首不猶繼蒙古嘗溺其水軍十萬波濤

之燐乎神州固天命之所全福

宗廟及山川百神百祀起烈風怒波濤而天

下忠義慷慨之士奮而作氣可以敵百十

可以敵萬騎而有一捷當進兵定舟直衝穿

盧以斬其王督其種而無噍類矣不然

宗廟及山川百神百祀有五馬而天下忠義

慷慨之士奮而作氣可以敵百十

可以敵萬騎而有一捷當進兵定舟直衝穿

傑之士固識之於數十年前而予為之備事  
至而不怪衆人及其變之始見形焉而畏怖  
狂惑不知所為妖言從而造益民亦乘以媒  
禍凶禍此誠可畏也夫今日之夏夜庚寅北  
其徵之于烈道有污隆而皇天代佐之以賢  
宰良相不喪其神器不墮其民命不卑其

- ・各展覧会図録中、作品名や作者、制作年などの表記は、図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は、書籍と同様に出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。

## 志士たちの書画

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 18

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁  
平成十年一月十日発行